

3. 既存施設の有効活用

1) 老朽化施設の長寿命化

近年、施設整備費が高騰しているため、既存施設をできるだけ長期間利用することで施設整備費を抑えることができる。

① 定期的な施設の保守点検

定期的な施設の保守点検を実施することにより、補修が必要な箇所を把握し、必要に応じて部品の交換等を実施することで施設本体の腐食等を防止する。

② 部品の交換・補強等の実施

谷部や地際部等の腐食や破損が進みやすい箇所やビニペット等の交換を行い、ハウスの強度を確保することで使用期間の延長が可能となる。

また、近年の台風の大型化や寒害の発生等、気象災害へ対応するため、効率的に既存施設の補強や保温性の向上等を行う必要がある。

また、硬質プラスチックフィルム等の交換の際には、長期に利用可能なフィルムへの交換等を検討する。



谷部の交換



接合部分の強化



ブレースの増設

2) 導入ハウス等の低コスト化

① 品目・作型に応じた適正規格のハウスの導入

品目や栽培期間によって台風等の気象災害のリスクが異なるため、品目や作型に応じて過剰投資とならないようハウス規格の選定を行う必要がある。併せて、附帯施設についても必要性を十分に検討の上、整備する。

② 新たに開発されている低コストハウスの導入検討

アーチパイプ間隔や立体構造の変更等により既存ハウスよりも安価なハウスが開発されているため、栽培作物・作型に応じて導入を検討する。

また、近年の台風の大型化や寒害の発生等、気象災害へ対応するため、効率的に既存施設の補強や保温性の向上等を行う必要がある。

○ 普及に当たっての留意事項

・部材の交換等においては、専門家に確認の上、ハウスの強度や安全面に配慮が必要である。